

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立城北中学校

1 自己評価書

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
<b>教育目標</b> 心身ともにたくましい生徒の育成						
<b>基本方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己を律して、礼儀正しい生徒</li> <li>優しさがあ、自他を思いやる生徒</li> <li>感性豊かで、明るく元気に活動する生徒</li> </ul>						
<b>本年度重点目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の定着と基本的生活習慣の確立</li> <li>思いやりの心と助け合う態度の育成</li> <li>生徒会活動・地域貢献活動の充実</li> </ul>						
<b>確かな学力の定着と向上</b>	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
	<b>(成果と課題)</b> ○学力の二極化が進行しており、学習意欲が低い生徒や成績不振の生徒への意欲付けや学習習慣の定着が課題である。 ○読書活動の充実に向けて、朝読書以外にも、効果的な取組を行う。 ○総合的な学習の時間において、地域の方々に協力を得て、地域に対する知識を広げることができた。					
	<b>(改善策等)</b> ○授業において、班活動や教え合う機会を増やすことで、生徒の学習意欲の向上を図る。 ○宿題を全員一律の課題ではなく、個々の習熟度に合わせた課題にする。 ○読書に対して、生徒の興味や関心を高めることのできる図書館づくりや、図書館だよりの発行を行っていく。					
	<b>生徒指導の充実</b>	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A	B	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	B	
③		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B C	B	
④		自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。 ・教師アンケート ・児童アンケート	A C	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート ・児童アンケート	C B		
<b>(成果と課題)</b> ○校則の見直しにより、学校にふさわしい身だしなみを自分で考えて生活を送ることができた。 ○教員との良好な人間関係により、生徒からの情報提供や相談があり、生徒指導上の大きな問題は起こらなかった。 ○生徒への相談機関の周知が不十分である。						
<b>(改善策等)</b> ○悩みを抱える生徒に、学校以外の相談窓口について丁寧に説明をしていく。 ○ボランティア活動や学校行事を通して、活動の場や成功体験の機会を増やし、生徒の自己肯定感、自己有用感を高める。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	B	
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
	(成果と課題)					
	○職員会議や行事に合わせて、柔軟に校時の変更を行い、時間外勤務の解消に努めた。 ○相談しやすい、支えあっていると感じている教員が多かった。 ○学年主任を中心に、学年部がよくまとまっていた。 ○スクールサポートスタッフ、地域学校協働活動推進員、学校用務員等のサポート力が高く、教育活動を支えていた。					
	(改善策等)					
	○負担が大きい教員にサポートの教員を配置する、複数の教員で業務に当たるなど、業務の分担を行っていく。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・教師アンケート	A		
			・保護者アンケート	B		
			・地域アンケート	A		
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	B		
			・地域アンケート	A		
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	B		
			・地域アンケート	A		
(成果と課題)						
○学校運営協議会の役割や目的についての理解を促進させる。 ○学級通信、学年通信を積極的に発行した学級、学年が多かった。 ○ホームページの情報発信への協力体制ができ、スムーズに更新ができた。						
(改善策等)						
○全教員が、1度は学校運営協議会に参加する。 ○生徒指導等、保護者の相談や悩みに直ぐに対応し、保護者の思いに寄り添う対応を行う。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

令和6年度 学校評価書（共通） 前期

城北独自の項目

評価項目	評価小項目	評価資料	評価の観点	評価	評価
学校独自	① 挨拶	・教師アンケート	生徒に気持ちの良い挨拶や返事ができるように指導している。	A	B
		・保護者アンケート	お子様は、気持ちの良い挨拶や返事ができている。	B	
		・生徒アンケート	私は、気持ちの良い挨拶や返事ができている。	C	
	② 部活動	・教師アンケート	部活動の指導を行っている。	A	A
		・保護者アンケート	部活動は、お子様のためになっている。（入部してない場合は空欄）	A	
		・生徒アンケート	部活動は、自分のためになっている。（入部してない場合は空欄）	A	
	③ 防災	・教師アンケート	校外で災害が起きた時の行動について、生徒に話をしたことがある。	A	B
		・保護者アンケート	校外で災害が起きた時の避難場所を、家族で相談して（決めて）いる。	B	
		・生徒アンケート	私は、校外で災害が起きた時の避難場所を家族で相談して（決めて）いる。	C	
<p>（成果と課題）</p> <p>○部活動での挨拶は昨年度よりも活発になってきたが、学校生活の場面での挨拶は不十分である。</p> <p>○避難訓練や引き渡し訓練を行い、校内で災害が起きた時の避難方法を生徒に確認させることができた。</p> <p>○校外で災害が起きた場合の避難場所を家族で相談している家庭が少ない。</p>					
<p>（改善策等）</p> <p>○教員から元気に挨拶するとともに、できるときは挨拶プラス一言会話を取り入れてみる。</p> <p>○各部で目標を決め、取り掛かりや活動内容を充実させたい。</p> <p>○日頃から、校外で災害が起きた場合にするかを考えさせるようにし、家族と相談しておくように指導する。</p>					